ウェルネス総合研究所

報道関係者各位

2026 年 11 月

一般社団法人ウェルネス総合研究所

【イベントレポート】

日本人の腸内環境と健康を考える 注目される「ブラウティア菌」の可能性

～腸内細菌研究の最新知見と食品素材「DFA III」による腸内環境へのアプローチ～

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、腸内環境と健康の関係性、そして腸内細菌の研究が日々進む中で日本人の多くが保有する「ブラウティア菌」に関するメディア関係者様向けセミナー『日本人の腸内環境と健康を考えるー注目される「ブラウティア菌」の可能性』～腸内細菌研究の最新知見と食品素材「DFA III」による腸内環境へのアプローチ～を開催致しました。

近年、腸内細菌研究は大きく進展し、単なる「腸の中に存在する細菌」ではなく、腸内環境が健康状態や身体の様々な機能と関係することが明らかになり、社会的な関心が高まっている中で、日本人の腸内に存在する腸内細菌の一つとして知られている「ブラウティア菌」について、京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体免疫栄養学講座 教授／消化器内科学　特任教授の内藤裕二氏による腸内細菌と食、昨今注目されている老化との関係性を踏まえた最新研究発表、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 副所長の國澤純氏による腸の健康とブラウティア菌の関係性に対する最新知見に加え、北海道産てん菜を原料とする製糖事業に長年取り組み、機能性糖質をはじめとする食品素材の研究開発を進める株式会社ニッテンから独自素材であるオリゴ糖「DFA III」に関するこれまでの研究と糖質による「育菌」アプローチの可能性の発表があり、

腸内細菌研究・新規素材の可能性など腸からの健康をテーマに、次世代腸内細菌として注目されている「ブラウティア菌」の可能性を発信する場となりました。



≪報道関係者のお問い合わせ先≫

日本人の腸内環境と健康を考えるー注目される「ブラウティア菌」の可能性

メディアセミナー事務局：佐藤、嶋田

TEL：03-5786-6008/ FAX：03-5786-6007/ MAIL：press@wellness-lab.org

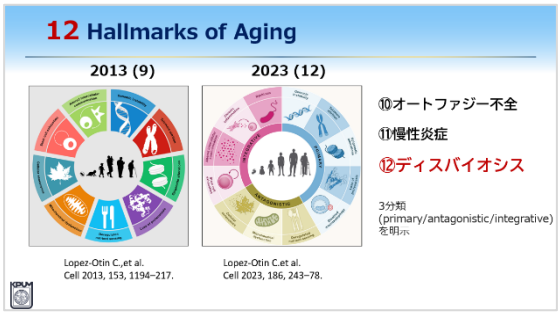
ウェルネス総合研究所

腸から考える Healthy Aging、健康･老化･食の新たな可能性

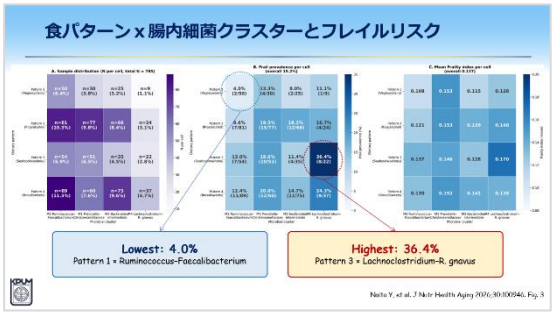
京都府立医科大学大学院医学研究科 生体免疫栄養学講座 教授 内藤 裕二 先生



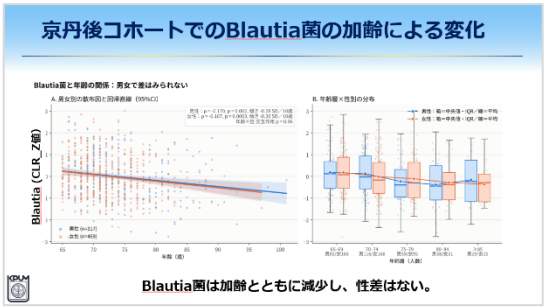
内藤先生からは注目される Longevity から老化研究の新たな研究分野である GeroScience の意義や目指していること、老化研究における腸の位置づけ、健康や老化との関係、そして食の新たな可能性について解説をいただきました。



冒頭、科学的エビデンスに基づく老化の指標「Hallmarks of Aging」において「ディスバイオシス」が位置づけられ、これまでも腸と老化に対する研究が進められてきている中で、腸の研究が老化との関係において、さらに重要なテーマとして注目されていることを述べました。



食と腸内環境との関係において、京丹後高齢者フレイルに対する食と腸内細菌連関から見えてきた4つの食事パターンと腸内細菌叢クラスターから食物繊維や栄養素との相関が腸内細菌と密接な関係にあること、そしてフレイルなど老化に対する研究成果を解説しました。



そして「ブラウティア菌」との関係において、食物繊維摂取や他の腸内細菌との関係における研究をさらに進めていく必要性はある中で、今後の「ブラウティア菌」の研究における食や腸内細菌との関係性に対する可能性や期待のコメントをいただきました。

≪報道関係者のお問い合わせ先≫
日本人の腸内環境と健康を考える―注目される「ブラウティア菌」の可能性
メディアセミナー事務局：佐藤、嶋田
TEL：03-5786-6008/ FAX：03-5786-6007/ MAIL：press@wellness-lab.org

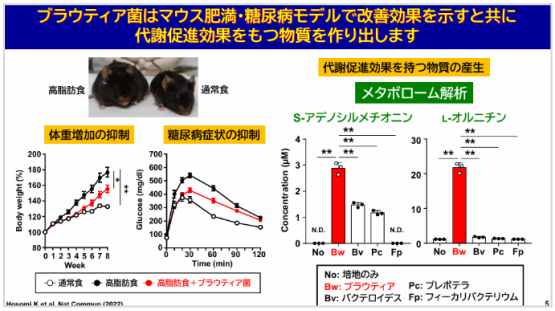
ウェルネス総合研究所

腸から健康を支える腸内細菌「ブラウティア菌」の可能性

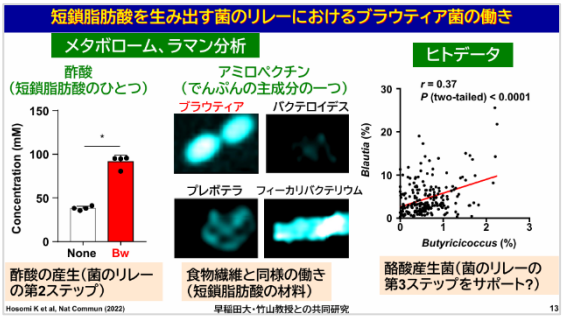
国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所　副所長　國澤純先生



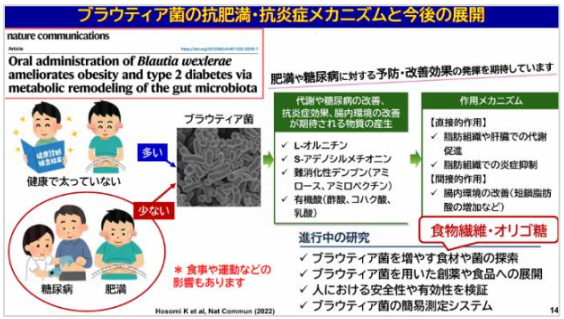
國澤先生からは腸からの健康と「ブラウティア菌」の可能性について、腸内環境と健康に対する研究基盤を踏まえて、「ブラウティア菌」に注目している背景や研究成果、今後の可能性など解説いただきました。



私たちが日本人を対象とした研究において、約９割の日本人が腸内細菌の１%以上保有しているブラウティア菌が、肥満ではない人や糖尿病ではない人に多いことを確認しました。さらにマウスや培養液を用いた試験では、体重増加や糖尿病症状の抑制に加え、代謝促進効果を持つ物質の産生を促す研究成果から、太りにくくする腸内細菌として「ブラウティア菌」の可能性を示唆しました。



また、腸能力を上げるためのキーワードのひとつ「短鎖脂肪酸」を生み出す“菌のリレー”における「ブラウティア菌」の働きとして、食物繊維と同様の働きをすること、酢酸を生み出す役割から、腸から健康を支える腸内細菌として「ブラウティア菌」への期待を寄せました。



「ブラウティア菌」の代謝や糖尿病の改善、抗炎症効果、腸内環境の改善が期待される物質の産生と作用メカニズム、そして“菌のリレー”における腸内環境デザインにおいて「ブラウティア菌」を増やす食材として食物繊維やオリゴ糖への期待も紹介しました。

≪報道関係者のお問い合わせ先≫

日本人の腸内環境と健康を考える―注目される「ブラウティア菌」の可能性

メディアセミナー事務局：佐藤、嶋田

TEL：03-5786-6008/ FAX：03-5786-6007/ MAIL：press@wellness-lab.org

ウェルネス総合研究所

機能性糖質研究から考える、これからの「育菌」アプローチ
～DFA III とブラウティア菌に着目した、腸内環境と代謝関連指標の新たな研究～

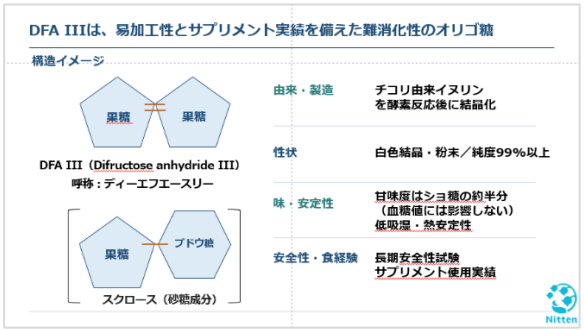
株式会社ニッテン　総合研究所　所長　菊地　裕人　様
株式会社ニッテン　総合研究所　食品研究グループ　研究員　野田　耕太　様



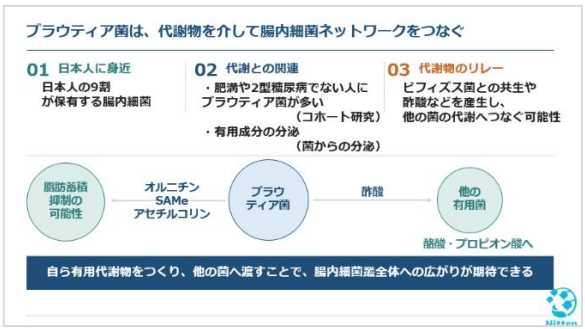
株式会社ニッテンの総合研究所 所長 菊地様からは、自社の歩みからニッテンへの社名変更にかけた思い、「てん菜産業」への飛躍、そして独自素材としてオリゴ糖の一種として難消化性糖質「DFA III」（ディーエフエースリー、正式名称：ダイフラクトースアンハイドライドⅢ）の開発背景から研究情報、今後の展開について紹介しました。



1919 年、北海道製糖という名前での創立以来、100 年以上にわたり培ってきた製糖技術を砂糖の製造にとどまらず、北海道農業への貢献や、てん菜の新しい価値へつなげていく。2026 年 10 月のニッテンへの社名変更に込めた製糖事業から「てん菜産業」への飛躍していく思いを紹介しました。



続いて「DFA III」について、果糖が 2 分子結合する特徴的なオリゴ糖であることを説明しました。小腸で吸収されにくい難消化性オリゴ糖として血糖値に影響を与えにくい特徴に加え、ショ糖の約半分の甘味度、熱に対して安定で分解されにくいことから、食品素材として扱いやすい物性を備えていることを解説しました。



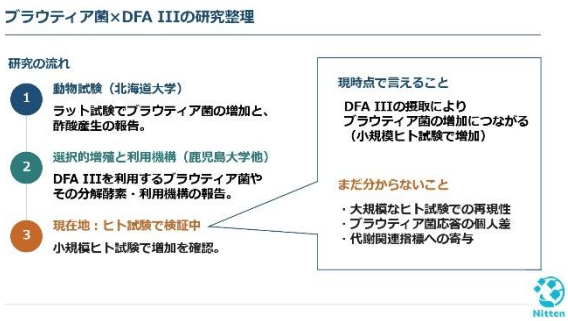
「ブラウティア菌」への注目理由として、日本人の約 9 割が保有する身近な腸内細菌で、コホート研究で肥満や 2 型糖尿病でない人にブラウティア菌が多いこと、さらにビフィズス菌との共生、酢酸の産生と他の有用菌との関係など、自ら有用代謝物を作り、かつ腸内細菌ネットワークをつなぐことが期待できる腸内細菌であると紹介しました。

≪報道関係者のお問い合わせ先≫
日本人の腸内環境と健康を考える―注目される「ブラウティア菌」の可能性
メディアセミナー事務局：佐藤、嶋田
TEL：03-5786-6008/ FAX：03-5786-6007/ MAIL：press@wellness-lab.org

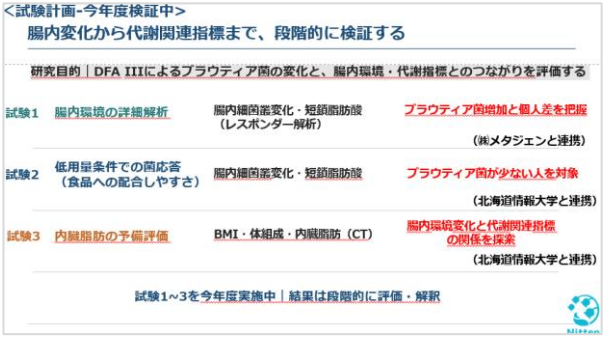
ウェルネス総合研究所



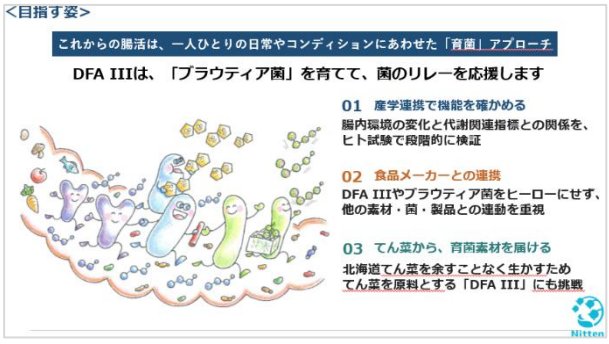
続いて、株式会社ニッテンの総合研究所 食品研究グループ 研究員の野田様より DFA III と「ブラウティア菌」の研究の流れ、今後の試験計画、そして研究を通じて DFA III が目指すべき姿について紹介しました。



これまでの研究において、現時点で言えることとして小規模ヒト試験において、DFA III の摂取により「ブラウティア菌」の増加につながる可能性が示唆されたことを確認、今後の大規模なヒト試験において、個人差の検証、代謝関連指標での関与などを明らかにしていくことを紹介しました。



今後のヒト試験の計画では、DFA III の摂取による「ブラウティア菌」を含む腸内細菌叢の変化や、代謝指標とのつながりを詳細に評価する三つの試験を段階的に進めることを発表しました。各段階での試験の結果と解釈を積み重ねて、DFA III と「ブラウティア菌」のエビデンスを構築していく考えを紹介しました。



最後に、これからの腸活として、一人ひとりの日常やコンディションにあわせて腸内細菌を育む「育菌」アプローチを提唱しました。DFA III が「ブラウティア菌」を育て、その先にある腸内細菌同士の“菌のリレー”を後押しする素材になると期待しているとともに、他の素材・菌・製品とも連携し、育菌の新しい選択肢をお届けしたいと締めくくりました。

≪報道関係者のお問い合わせ先≫
日本人の腸内環境と健康を考える―注目される「ブラウティア菌」の可能性
メディアセミナー事務局：佐藤、嶋田
TEL：03-5786-6008/ FAX：03-5786-6007/ MAIL：press@wellness-lab.org

ウェルネス総合研究所

■ウェルネス総合研究所　概要

ウェルネス総研は、独自の視点で健康・ウェルネスに関する情報の調査・集積・発信を行なっている一般社団法人です。情報発信プラットフォーム型メディア「ウェルネス総研レポート online」の運営、白書の発刊をはじめとした専門性の高い情報発信のほか、人々の健康や QOL 向上を助ける食品・医薬品・化粧品・運動などに関わる団体・企業に向けたコンサルティングも実施しており、人々の健康維持・改善を実現する、健康・ウェルネス産業の発展に寄与してまいります。

WEB サイト：https://wellness-lab.org/
ウェルネス総研レポート online：https://wellnesslab-report.jp/

≪報道関係者のお問い合わせ先≫
日本人の腸内環境と健康を考える―注目される「ブラウティア菌」の可能性
メディアセミナー事務局：佐藤、嶋田
TEL：03-5786-6008/ FAX：03-5786-6007/ MAIL：press@wellness-lab.org